

京都女子大学

---

# 図書館情報学研究紀要

---

6

2019年3月

## 目次

児童書の選書に関する一考察 —公立図書館と学校図書館の選定基準に着目して— .....	坂下 直子...	1
学校図書館における蔵書廃棄及び更新に関する考察 .....	坂本 俊...	23
小学生新聞の表記：振り仮名と字種を中心に .....	設楽 馨...	31
和本古言梯（抄） —和装資料訂用語の考察— .....	山中 康行...	39
図書館実習報告 .....		71
京都府立図書館インターンシップ報告 .....		78

## 2018年度図書館実習報告

今年度は4名の学生が図書館実習を希望し、脱落者を出すことなく全員で無事に図書館実習を終えることができた。事前学習に向けて志望動機を尋ねると、学生によって図書館実習に対する挑み方は様々であった。

在学中に司書課程の授業以外にも学内の図書館サークル(KWUICLS)や図書館ボランティア(図書活スタッフ)に所属し、学外では公共図書館でアルバイトをしたり、留学先で海外の図書館を見たりした経験を持つ学生は、図書館が抱える課題を解決するために何ができるだろうかという問いを持って実習に臨んだ。実習経験は卒業後の進路決定にも影響し、図書館関連企業への就職を目指すきっかけになったという。

他にも、子どもや若者と本を繋ぐ仕事をしたいという目標を持つ学生は、自分自身が描いている仕事の具体的なイメージを持つために、図書館職員がどのようにして子どもや若者と図書館を繋げようとしているのか、実習現場で直に学びたいのだと意欲的であった。

本学の実習プログラムは、事前学習6回、図書館実習4～6日、事後学習2回で構成され、図書館司書課程の教員2名と共に進めている。プログラムの主な内訳は以下の通りである。

1. 図書館実習オリエンテーション
2. 図書館実習の心得
3. 図書館業務の復習、図書館見学の準備
4. 図書館見学(1): 京都府立図書館
5. 図書館見学(2): 大阪市立中央図書館
6. 図書館見学の報告、公共図書館の運営形態およびサービスの把握
- 7-13. 図書館実習、実習ノートの作成(7～9月、各実習館にて)
14. 実習報告書の作成
15. 実習報告会: 実習報告書をもとに実習生と情報・意見交換

昨年度までの実習館は京都市内の図書館に限っていたが、今年度は京都市図書館を含め、実習生が希望する図書館で実習ができるようにした。新しい実習館が加わったことにより、各館の特徴がよく表れた実習報告となった。今年度の図書館実習の受け入れにご協力いただいた京都市図書館(中央・伏見中央)、宇治市中央図書館、大阪市立阿倍野図書館の担当者の皆さまに感謝申し上げます。(文責: 桂 まに子)

実習館	京都市伏見中央図書館
実習期間	2018年7月30日～8月4日 (休館日を除いた5日間)
実習生	文学部国文学科4回生 千葉 郁恵

<p>実習プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンター業務</li> <li>・返本・書架整理</li> <li>・ブックポスト内の図書、ブックメールで届いた図書の整理・返本作業</li> <li>・赤ちゃん向け読み聞かせイベント「赤ちゃん絵本こんにちは」の準備と出演</li> <li>・ティーンズ向けお薦め図書の紹介文・POPの制作</li> <li>・レファレンス研修</li> <li>・イベント展示コーナーのポスター作り</li> <li>・新着図書の検収・新着配架補助</li> </ul>
<p>特色あるサービス・業務</p> <p>地元伏見に関する資料を集めた「伏見コーナー」を設けており、その中でも児童を対象とした伏見児童コーナーを設けている。他にも「赤ちゃん絵本こんにちは」という赤ちゃんとその親を対象とした読み聞かせイベントを月2回行い、そのうちの1回は保育所職員による育児相談も受け付けている。「こぎつね通信」という児童向け刊行物も発行しており、子どもの読書活動を強く推進しているように見受けられた。</p>
<p>実習で学んだこと</p> <p>カウンター業務や書架整理などの通常業務に加えて、イベント等の準備を同時進行するなど、想像していた以上に業務が多かった。特に朝や休館日の次の日などはブックポスト・ブックメール内の図書数が多く、その図書を整理するだけでも多くの時間と体力を要した。</p> <p>また、読み聞かせのイベントにあたって職員の方に指導を受けたが、学校の座学の授業では学び得なかった読み聞かせのポイントや技法について丁寧に教えられ、非常に勉強になった。</p> <p>私は今回の実習の中で「図書館の職員の方の現場で働く生の声を聞く」ことを目標としており、その旨を職員の方々は快く受けさまざまな話をしてくださった。こちらも学校の座学の授業だけでは学び得ない貴重な経験であり、授業を受けていた頃よりもより身近に、より強く図書館について考えさせられた。知識的なもの他にもこういった図書館の内情などの話を丁寧に説明してくださるのは非常に有難い。</p>
<p>後輩実習生へのアドバイス</p> <p>事前の下見や調べで大体の配架場所は頭に入れていたが、実際に棚から棚へ動いていた方が早く細かく覚えられた。返本・書架整理は積極的に申し出て動いた方が良い。また、実習生であっても利用者にとっては図書館員であることには変わらない。自分も表に出ていると利用者から話しかけられることが非常に多かったので、気を抜かずに利用者からの尋ねに対応できるよう心構えておくと良い。</p>

## 2018年度図書館実習報告

事前訪問では挨拶や基本的な注意事項や確認事項のほか、実習中のタイムスケジュール表をもらった。その場でスケジュール表を見て分からないことや疑問に思ったことは積極的に質問しておいた方が心構えもでき、準備が必要な場合は概算しておける。また、HPには大まかな館内案内図しかなかったため、事前訪問の際に細かく書架の分類が記載された案内図をもらった。実習前に不明な点をなくしておくことで安心である。

実習館	京都市中央図書館
実習期間	2018年7月30日～8月4日（休館日を除いた5日間）
実習生	文学部史学科4回生 羽谷 優花

実習プログラム
<p>毎日取り組んだのは以下の6つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 朝礼（その日の予定確認や報告事項を聞く）</li> <li>(2) 予約本手配（中央館にある予約の入った本を書架から探してくる作業）</li> <li>(3) ブックメール作業（他館に送る本の袋詰め、他館から届いた予約・返却本の手続きと配架）</li> <li>(4) カウンター業務（貸し出し・返却・配送手続き）</li> <li>(5) 配架（帰ってきた本を開架書架に並べる作業）</li> <li>(6) ミニ展示の企画（成人カウンターの9月のミニ展示を企画、そのポスター作り）</li> </ol> <p>その他に、以下のことにも取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(7) 読み聞かせとその準備・講座（3日目の園児さんへの読み聞かせに向けて）</li> <li>(8) 雑誌除籍作業（2014年の雑誌の除籍作業を4日目のみ）</li> <li>(9) 模擬レファレンス（課題をいただき実際に調べる作業をした。4日目のみ）</li> <li>(10) 本紹介の文章作成（おススメの本の紹介文作成。4日目のみ）</li> <li>(11) 夜のイベント準備（会場のいすや机の並び替えなど。4日目のみ）</li> </ol>
特色あるサービス・業務
<p>京都市の中央図書館ということで、他の京都市図書館はもちろん、府立図書館や他の市町村の図書館との連携・連絡もこの図書館が担っていることが特色と言えよう。夏休みということも要因の1つだが、毎日ブックメールで扱う本が本当に多かった。出ていく資料も届く資料もとても多いため、それだけ図書館が利用されていること・中央図書館の規模が京都市の中でそれだけ大きいことを示している。ブックメールは他の図書館にもあるシステムだが、規模が大きいゆえに重要で特徴的な業務となっていると感じた。</p>
実習で学んだこと
<p>実習を終えて一番感じていたことは、利用者に見えない作業がとても大切であるということだ。今までの授業を聞いて、利用者に見えないサービスや作業があることは知っていたが、それらの具体的な内容や仕事量はまったくと言ってもよいほど想像できていなかったと実感した。</p>

利用者の目に入る業務もそうでない業務もたくさん経験させていただいたことで、図書館という空間がどのように動いているのかを知ることができた。また図書館で行われている全ての業務が、地域に寄り添う図書館という場の存在維持に不可欠であることを感じた。実習前には「ひとつずつ」として見ていた図書館の業務を「不可分のひとつの流れ」として見られるようになったことは、実習前との大きな違いだと言える。頭では「ひとつの流れ」と思っていたつもりでいたが、実習をして初めて「ひとつずつ」の作業としての認識の方がまだまだ自分の中で強く残っていたことがわかった。

また、当初児童サービスに興味を持って実習を志望したが、成人カウンターや参考図書室でも業務をさせていただいたことで、それぞれに違ったやりがいがあることを感じる事ができた。利用者層の性質の違いを感じられたことも貴重な経験となった。

難しいことや時間がかかってしまいご迷惑をおかけしてしまうこともあったが、実習全体を通して実感する学びの多い充実した時間を持つことができた。

#### 後輩実習生へのアドバイス

事前訪問の時服装を迷いましたが、事前訪問・実習中ともに私服が良いと担当者の方がおっしゃってくださったため私服でした。私のお世話になったところでは、事前訪問の時の服装を見て「こんな感じの服装で来てくださったら結構です」とおっしゃっていただけなので、実習期間中はそんなに迷いませんでした。

配架については事前訪問のときに自分で確認しメモに書いていたのですが、来館者の方に場所を尋ねられたときはとっさに見つけられませんでした。開館前の予約本手配の時に本を探すのとはまったく違う焦りみたいなものが出てしまい、難しかったです。初めは慌ててしまいましたが、焦らず探して早めに職員の方にお尋ねするのが私の中で一番確実な方法でした。職員の方ほどなたもとても親切にお教えてくださいます。

実習館	大阪市立阿倍野図書館
実習期間	2018年8月6日～11日（休館日を除いた5日間）
実習生	文学部国文学科4回生 奥田亜梨紗

#### 実習プログラム

- 1日目：ガイダンス、館内見学、現物点検（予約資料の確保）、市外図書館貸借資料の説明、カウンター実習、商用データベースの説明・実習、団体貸出や寄贈登録等の説明・実習、資料検索の説明
- 2日目：返却ポスト処理、相互貸借処理、現物点検、新刊雑誌の装備、カウンター実習、書架整理
- 3日目：返却ポスト処理、相互貸借処理、市外取り寄せの説明、寄贈図書装備、カウンター実習、市政刊行物・チラシの整理、予約資料の入力、書架整理
- 4日目：返却ポスト処理、相互貸借処理、現物点検、行事見学（幼児向けの読み聞かせ会）、新刊図書・雑誌の装備、図書整理、書架整理

2018年度図書館実習報告

5日目：返却ポスト処理、相互貸借処理、行事見学（幼児向けの読み聞かせ会）、教科書受け入れの説明、市外資料の返却処理、書架整理
特色あるサービス・業務
<p>大阪市立図書館では業務を大阪市の本務職員と委託業者で分割して行っている。主に委託業者はカウンター業務と資料の補修や書架整理を行っており、職員はそれ以外の予約資料の受付や複雑なレファレンス等を請け負っていた。</p>
実習で学んだこと
<p>全体を通して作業量が多く、図書館職員は大変な仕事だと思った。私が実習を行った館は本務職員と委託業者の仕事がきちりと線分けされていたため、委託業者の判断では解決できない問題が発生した場合、本務職員の指示を仰ぐことも何度があった。そのため、二人しかない本務職員の負担や責任は重く感じた。実習館は地域館のため所蔵されている資料のほとんどが書架に並んでいたと思うが、利用者が利用するのはそれだけではなく他の図書館から相互貸借や市外取り寄せされた資料もあり、毎日かなりの量の資料が行き交っていた。そのため、利用者の立場に立ってみれば相互貸借は便利な仕組みだが、職員にとっては大きな負担だと感じた。業務に慣れるまでは大変だろうが、作業量が多い分やりがいの大きい仕事だと思う。</p>
後輩実習生へのアドバイス
<p>司書資格を取得するための授業で学んだことや演習の内容はあくまで基礎で、実際に図書館で働く上で活かせるかと言うと、活かすというよりも知らず知らずのうちに利用していたという感覚になる程度だと思う。実際私自身が実習を行って司書資格の授業で学んだことを行っていたのは本務職員で、委託業者はカウンターでの貸し借りとや書架整理や相互貸借資料の処理で手一杯だったように思う。これが大学図書館の場合は変わってくるのかもしれないが、公共図書館での仕事は私自身が思い描いていた仕事とは大きく異なっていた。「お試しの実習生」として図書館の内に入る機会は大学の今を逃すと訪れないだろうし、実習自体は楽しかったためぜひ経験してみしてほしい。</p> <p>実習館の事前訪問は、実習の3週間ほど前に電話でアポイントを取り、2週間前に訪問した。事前訪問では、本務職員から実習中の注意事項と経験してみたい業務の確認、館内見学を行い、40分ほどで終わった。経験してみたい業務をあらかじめ希望を伝えられる良い機会だと思う。</p>

実習館	宇治市中央図書館
実習期間	2018年7月31日～8月5日 (6日間)
実習生	文学部英文学科4回生 福岡 晴香

<p>実習プログラム</p> <p>7月31日 (火)</p> <p>午前：概要説明、東西分館からの取り置き本探し、書架整理、成人書について、相互貸借について</p> <p>午後：カウンター補助、ミニ展示企画 (13冊候補を出した)、実習日誌作成</p> <p>8月1日 (水)</p> <p>午前：書架整理、東西分館からの取り置き本探し、書架整理、資料の除籍についての説明、リサイクル本の処理補助</p> <p>午後：配本袋詰め、返却カウンター補助、書架整理、実習日誌作成</p> <p>8月2日 (木)</p> <p>午前：インターネット予約処理についての説明・作業、配本所準備補助、雑誌について・雑誌の書庫への移動作業、東西分館からの取り置き本探し</p> <p>午後：連絡車での配本業務補助、配本所から返却された本の袋出し、ミニ展示の準備・展示に使う本集め、実習日誌作成</p> <p>8月3日 (金)</p> <p>午前：児童書・展示・イベント事業等についての説明、取り置き本探し、実験教室 (児童向けイベント) の見学、書架整理</p> <p>午後：メール・電話での予約連絡についての説明・補助、配本についての説明、貸出カウンター補助、ミニ展示セッティング、実習日誌作成</p> <p>8月4日 (土)</p> <p>午前：貸出カウンター補助、予約本探し、書架整理、貸出カウンター補助</p> <p>午後：予約メール補助、書架整理、貸出カウンター補助、実習日誌作成</p> <p>8月5日 (日)</p> <p>午前：貸出カウンター補助、予約本探し、リクエスト本の発注、利用者へ配布する用紙の印刷</p> <p>午後：予約メール補助、書架整理、おはなし会の準備・見学、実習日誌作成</p> <p>昼休憩は毎日1時間。実習日誌作成は毎日16時から17時に作成した。ミニ展示はテーマを「笑い」とし、ブックトラック1台を使って展示した。</p>
<p>特色あるサービス・業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「連絡車での配本業務」毎週木曜日に、地域の配本所に本を配本するサービスがあった。配本業務は、業務委託の職員ではなく正職員が行っていた。</li> <li>・イベント事業や企画展示に意欲的に取り組んでおり、数が多い。男性職員の割合が比較的高いことから企画された「読みメン講習会」が特に面白いと感じた。</li> </ul>

実習で学んだこと

・地域住民との関わりの重要性

実習前まで京都市図書館について学んだり触れたりする機会が多く、その中で観光客に対するサービスが少ないことに疑問を感じていた。しかし、この実習期間ではサービス対象の基本は地域住民であることを実感し、自身の考え方が変化した。図書館員が利用者と話す際や、電話をする際も、カスタマーセンターの方のような話し方ではなく、親しみを感じられるような話し方を心がけていたことが印象的だった。

・ミスをしないことの大切さ

スピードよりもミスをしないことが大切だと何度も伺った。様々な作業の中でダブルチェックできる仕組みができていた。

後輩実習生へのアドバイス

「若者ならではのアイデアを…」と求められる場面があった。普段から、図書館関連のこと以外にもアンテナを張り、流行に敏感になる努力をしてみると、実習の現場でも生かされるかもしれない。宇治市図書館には、司書採用の職員と事務採用で図書館に配属された職員が存在した。両方の働き方が見られる現場だったため、図書館司書を目指すか、公務員試験を受けるか迷う人には良い実習館だと感じた。

図書館は多くの個人情報扱う場であることを常に意識しながら実習させていただくことが大切だと感じる。利用者対応や電話、メールを使う際には特に注意が必要だと学んだ。

事前訪問はオフィスカジュアルで訪問した。図書館の年報やパンフレット等をいただき、目を通しておくように指示された。館内も詳しく案内いただいた。

## 2018年度京都府立図書館インターンシップ報告

昨年度後期に京都女子大学の図書館司書課程向けの「京都府立図書館ボランティア」を試行し、5名の受講生が市町村図書館支援業務や来館者案内（コンシェルジュ）を経験した。この間の経験をもとに、府立図書館では、公立図書館や学校図書館に興味・関心のある学生が図書館で様々な業務を体験できるインターンシップ支援事業を今年度の新規事業として実施した。対象学生は今のところ本学の学生に限定されており、学内では「京都府立図書館インターンシップ」と呼んでいる。4～5月に学内募集と館長面談を行い、16名のインターンシップ生が図書館業務を体験した。インターンシップ生の募集条件は以下の通りである。

募集条件は、司書課程を学び、公立図書館や学校図書館に興味・関心があり、図書館業務を体験してみたい学生で、6か月以上継続して活動できる学生である。今年度の反省点としては、入学したばかりの1回生も対象にしていたため、大学の授業やサークル活動などが影響し、図書館インターンシップの継続が難しくなった学生が目立った。2019年度は、年度始めの募集は2回生からとし、後期に追加募集枠が発生した際には1回生を含めて募集対象とすることを提案したい。なお、2017年度のボランティア生のうち、2名が継続してインターンシップにも参加している。

活動時間は、週のうちの講義のない曜日の時間帯及び長期休暇中とし、具体的な活動日や活動時間は面談の上決めていった。どの学生も週1回の活動となるようにシフトが組まれ、1回の活動期間は14：00～17：00までの3時間であった。この時間設定は、市町村図書館支援のために府内を巡回する連絡協力車が本を積んで図書館に戻ってくる時間帯に合わせているためである。インターンシップの主な活動内容を以下に挙げる。

- (1) 府立図書館が市町村立図書館や学校を支援していることを知るとともに、NDCなど基礎的な知識も体得できる活動
  - ・市町村からの貸出希望図書を開架・閉架書架の排架場所から集める。
  - ・それらの図書について、システムによる貸出処理をし、各図書館へ搬送できるように準備する。
  - ・府内を巡回してきた連絡協力車から府立図書館に下ろされた図書を、最終目的地となる図書館ごとの棚に振り分ける。
  - ・同じく連絡協力車から下ろされた府立図書館への返却本を、システムによって返却処理をする。
  - ・市町村立図書館への支援策として一度に大量の図書を貸出している。その該当市町村立図書館が直接搬送してきた返却本を、システムによって返却処理をする。

- (2) 学校図書館の充実には、図書資料の充実が欠かせない。その一助となるため、テーマごとに図書をセットして準備し、各学校での調べ学習や朝読書などに利用できるよう図書を届ける活動（基本的な作業の流れは上記に同じ）
- (3) 図書資料の登録や修理に関する活動
- (4) 岡崎地域では近年積極的な観光振興策がとられており、府立図書館に初めて来館される方も増えている。そのため入口付近の総合案内窓口で来館者に案内する活動（コンシェルジュ）
- (5) 府民の図書館来館を促進するために実施している館内見学会や図書館活用講座、図書館連続講座等に関する活動

これらの活動内容の他にも、地域のイベント「岡崎ワールドミュージックフェスタ2018」に京都府立図書館として参加し、フェスタのテーマに合わせた本を図書館で選び、会場となったお寺で読み聞かせを体験したインターンシップ生もいる（3名）。詳しくは、実際にインターンシップを体験した学生の報告を参照していただきたい。昨年度の試行段階から今年度のインターンシップ支援事業へとプログラムが実現し、参加した本学の学生たちが図書館現場で貴重な体験を積むことができたのは、丸川館長をはじめ、京都府立図書館の職員の皆さまのバックアップのおかげである。特に、日替わりでやって来る学生たちを一から指導してくださった担当の職員の方々には深く感謝申し上げます。（文責：桂 まに子）



読み聞かせ体験 「岡崎ワールドミュージックフェスタ2018」(10/21) @本山妙傳寺

インターンシップ生	文学部国文学科2回生 新保あゆみ
通常業務	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書架整理：返却済みの資料を請求記号順に書架に戻す。また、書架に乱れがあれば整える。</li> <li>・集本作業（連携）：京都府内の図書館からの資料の貸出依頼に応じ、集本作業を行う。</li> </ul>	
イベントサポート	
<p>本山妙傳寺（京都府京都市左京区）にて行われた「岡崎ワールドミュージックフェスタ2018」と京都府立図書館内でのイベントをサポートした。</p>	
<p>(1) 岡崎ワールドミュージックフェスタ2018</p> <p>2018年10月21日（日）に本山妙傳寺で開催された「岡崎ワールドミュージックフェスタ2018」にて、乳幼児からヤングアダルト層、高齢者まで、幅広い年齢の参加者を相手にアフリカ民話の読み聞かせを行った。乳幼児にも楽しんでもらえるように比較的簡単な図形を用いて描かれた絵本を用意し、声の抑揚や間の取り方も意識して絵本を読み聞かせた。また、ヤングアダルト層にも聞いてもらえるよう、現在大学生である私も面白いと感じる絵本も用意した。挿絵の少ない民話集の中からもいくつか民話を読み聞かせ、挿絵を見せる際には、一言コメントをしてから絵を見せるという工夫も行った。工夫のおかげか、子どもたちが食い入るように前のめりになって挿絵に夢中になっていた。読み聞かせが終わった後には、絵本や挿絵を見に子どもたちが私たちの側に集まってくれていた。読み聞かせを行っている最中は子供と親、子どもと私たち、親と私たちなど、アフリカ民話の作り出す空気の中で静かながらもコミュニケーションが取れていたように思う。フェスタにはインターンシップ生3名が参加し、読み聞かせに用いた資料は以下の4作品である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『南アフリカの民話』（バーナ＝アアダマ、偕成社、1982.2）</li> <li>・『サンコンのとおきアフリカむかし話』（オスマン・サンコン、金の星社、1989.6）</li> <li>・『ほーら、これでいい!』（ウォン＝デイ・ペイ、マーガレット・H・リッパート再話、ジュリー・パシキス絵、さくまゆみこ訳、アーロン、2006.10）</li> <li>・『どうしてカはみみのそばでぶんぶんいうの?』（ヴェルナ・アールデマ作、レオン・ディロン、ダイアン・ディロン絵、ほるぷ出版、1976.9）</li> </ul> <p>(2) 図書館活用講座「藤田嗣治挿絵紹介+ワークショップ」</p> <p>2019年1月6日（日）に京都府立図書館にて開催された図書館活用講座「藤田嗣治挿絵紹介+ワークショップ」のサポートを行った。ワークショップのブックカバー作りをサポートし、参加者の方にPC（主にWord）の使い方や著作権についての簡単な説明を行った。参加者が作成したブックカバーのデータをワークショップ終了後に職員へ渡した。</p>	
図書館案内	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンシェルジュ</li> </ul> <p>図書館の入り口に立って利用者からの質問や意見を聞き、必要があれば案内を行う。質問はトイレの場所などの建物の案内に関することから、絵本や電話帳の有無などの資料に関すること、閲覧や貸出には何か必要なものがあるか否かなどの図書館利用に関することまで、多岐にわたった。意見は図書館のイベントに関する感想や要望が多かった。</p>	

インターンシップで学んだこと

以上が京都府立図書館におけるインターンシップでの主な体験である。様々ある中でも特にイベントでのワークショップや読み聞かせでの体験はとても印象的で、大変有意義な経験ができた。学校で学んだ知識の実践を学外で、それも実際の図書館利用者やイベント参加者を相手に行うことができたというのは、自分の中でとても大きな自信に繋がった。

京都府立図書館でのインターンシップは、あらゆる立場の人のことを考える機会と実際の声に触れる機会を与えてくれた。利用者のことを考え、その実際の意見を聞き、それに応えようと努力することにより、大きく視野が広がったように思う。

## 京都女子大学図書館情報学研究紀要 6

発行日 2019年3月31日

編集・発行 京都女子大学図書館司書課程研究室

〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町35

電話 075 (531) 7048